



2024年10月3日  
タレンツ・トーキョー実行委員会

**カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭でも注目されるアジアの映画人を多数輩出  
映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2024」参加者・メイン講師決定  
世界で活躍が期待される企画を選抜する「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」も発表**

タレンツ・トーキョー実行委員会は、映像分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能(=Talents、タレンツ)」を育成することを目的とした「タレンツ・トーキョー」を、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京との共催で2010年から毎年秋に実施しています。アジアの若手映画作家やプロデューサーを東京に招き、7日間にわたるワークショップを通じて、世界で活躍していくためのノウハウを学ぶ人材育成事業です。また、本事業は「ベルリン国際映画祭」の一環として開催されている「ベルリナーレ・タレンツ」の、海外展開における唯一のアジア版として実施するもので、カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭で受賞する修了生も多く、世界的に活躍する映画人を多数輩出しています。

15回目となる今回は、「To Love is To See」というテーマのもと、2024年11月25日(月)～12月1日(日)の日程で行います。一般公開の対象となる公開プレゼンテーションは、11月28日(木)です(取材及び観覧は要事前登録、詳細は後日お知らせします)。

この度、選考の結果、17名の参加者(タレンツ)が決定しました。メイン講師には、映画監督のアン・スウィッチャー・ゴーンポン氏、プロデューサーのアレンバーク・アン氏、ベルリン国際映画祭からニコラ・イエツツェ氏、他、ワールド・セールス担当講師(後日発表)の世界で活躍する4名のプロフェッショナルを迎えます。

また、本事業修了生を対象とし、今後世界での活躍が期待される企画を選抜しサポートする「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」の対象企画も決定しましたので、あわせてお知らせします。

※詳細については、別紙1～3をご参照ください。

(本事業は、平成22年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌23年度から25年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、26年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)

**<開催概要>**

名称：タレンツ・トーキョー2024 (Talents Tokyo 2024)  
会期：2024年11月25日(月)～12月1日(日)  
※11月28日(木)「公開プレゼンテーション」取材及び観覧の事前登録に関する詳細は後日発表  
会場：有楽町朝日スクエアほか(東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F)  
公式ウェブサイト：<https://talents-tokyo.jp>  
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会  
提携：ベルリン国際映画祭(ベルリナーレ・タレンツ)  
協力：ゲート・インスティテュート/東京ドイツ文化センター

**<本事業の掲載に関するお問い合わせ>**

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局 担当：林  
E-mail：[talents@talents-tokyo.jp](mailto:talents@talents-tokyo.jp)

## 別紙1 「タレント・トーキョー2024」メイン講師（エキスパート）



(左から、アノーチャ・スウィチャーゴーンポン氏、アレンバーグ・アン氏、ニコラ・イエッツェ氏)

### アノーチャ・スウィチャーゴーンポン（映画監督）

映画監督として、タイの社会・政治史に影響を受けた作品を制作し続けている。これまでニューヨークの Museum of the Moving Image やトロントの TIFF シネマテーク、ハーバードフィルムアーカイブなどで監督作品の特集も実施された。バンコク拠点の制作会社 Electric Eel Films を設立し、非営利法人である Purin Pictures を共同設立。これらの団体を通じて、東南アジアのインディペンデント映画制作を支援している。また、Prince Claus Laureate、DAAD Artists-in-Berlin レジデンス、Rockefeller Foundation Bellagio Residency にも参加。2018 年から 2020 年にかけてはハーバード大学の芸術・映画・映像学学部で客員教授を務め、長編最新作『カム・ヒア』は 2021 年のベルリン国際映画祭フォーラム部門で上映された。2022 年には Walker Art Center の依頼で、初めてのライブパフォーマンス「FREETIME」を演出した。2022 年より、コロンビア大学の MFA 映画プログラムに映画監督教員として加わり、現在はバンコクと NY を拠点とする。

### アレンバーグ・アン（プロデューサー）

10 年間の教師経験ののち、映画プロデューサーの道に転向。彼の映画制作は社会・市民問題、フィリピン芸術や文学への情熱を礎にして形作られている。カンヌ、トロント、プサン、東京などの国際映画祭で広く姿を見せ、世界の映画舞台で社会のマイノリティに声を与える作品を作り続けている。

主に新人映画監督のデビュー作や第二作に協力し、以下の作品に携わる：オンライン上で活動する同性愛者セックスワーカーの存在的苦悩をテーマにした『Bold Eagle（原題）』（ニューヨーク映画祭 2023、ファンタジア国際映画祭 2023、サンダンス映画祭 2024）、日本の社会制度と高齢者福祉に注目した早川千絵監督の『PLAN 75』（カンヌ国際映画祭 2022「ある視点」部門：カメラドール・スペシャルメンション）、カトリック工場とその LGBTQ+従業員を描いた Joseph MANGAT 監督の『Divine Factory（原題）』（ライブツィヒ国際映画祭 2022）、地元で起きる謎の殺人事件を理解しようとする少年を描いた Petersen VARGAS 監督の『How to Die Young in Manila（原題）』（釜山国際映画祭 2020）。

他には、Rotterdam Lab (2012)、Berlinale Talents (2013, 2021)、Talents Tokyo (2014)、Locarno's Open Doors (2019)、La Fabrique Cinema du Monde (2021)、IDFA Producers Connection (2021)、EAVE Producers Workshop (2022) などの映画人材育成プログラムに参加。

## ニコラ・イエッツェ (Berlinale Talents)

2023年からベルリン国際映画祭の人材育成プログラム、ベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャーを務める。20年以上にわたり、世界中の数々の映画、およびアートプロジェクトについて、特に財務、資金調達、制作を中心にマネージメントしている。

Haus der Kulturen der Welt (国営アートセンター) と Sources 2 (映画人向けの人材育成プログラム) でのポジションを経た後、16年以上にわたりヨーロッパ映画賞 (European Film Awards) での制作、イベント管理、スポンサーシップ、そして大規模かつ国際的なプロジェクトにかかわってきた。映画、およびタレントプロモーションの分野における専門知識と、国際的な協力の制作や管理における豊富な経験に加え、ベルリナーレ・タレンツの創設当初から関わっている。例として、2002年から2023年にかけて、500人のタレンツが招待された一年目のベルリナーレ・タレント・キャンパスの開催をサポートした。

最近携わった3年間にわたるコラボレーション企画、「Driving the Human – 7 Prototypes for Eco-Social Renewal」において、数々の映画祭の協力を仰ぎ、印刷物の出版業務を監督する。

2021年から、WAM (Women in Arts and Media association) でのボランティア活動に参加し、同年にはドイツ文化評議会の女性管理職促進活動にも参加した。2023年からは人事およびビジネスコーチも務めている。

## 別紙2 「タレンツ・トーキョー2024」参加者（タレンツ）

監督：

Danech SAN（カンボジア）  
YAN Haohao（中国）  
YANG Yanxi（中国）  
CHAN Tze-woon（香港）  
Adriano Rudiman（インドネシア）  
HATAKEYAMA Kana（日本）  
MURAKAMI Riko（日本）  
JANG Jeehye Kay（韓国）  
LAU Kok Rui（マレーシア）  
Lkhagvadulam PUREV-OCHIR（モンゴル）  
Alvin LEE（シンガポール）  
François CHANG（台湾）  
MAI Huyèn Chi（ベトナム）

プロデューサー：

Annie SONG（中国）  
B.M. Anggana（インドネシア）  
KOIDE Daiju（日本）  
SHEN Ivy Yu-Hua（台湾）

選考委員会は、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルムメックス理事長）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルムメックスプログラムディレクター）により構成されています。

一次選考には、深津純子（ライター/東京フィルムメックス理事）、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルムメックス理事長）、林未侑（タレンツ・トーキョー）が参加しました。

\* タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

\* 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。

\* 2024年10月3日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

## 別紙3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画

### a) 企画開発ファンド

LI Yang (TT2016、中国) <GHOST OF UENO>  
OATES Yinchao (TT2023、中国) <Water Has Another Dream>  
Yuan YUAN (TT2023、中国) <Heading South>  
Zi GAO (TT2018、中国) <Raja's Early Summer>  
Yulia Evina Bhara (TT2020、インドネシア) <WATCH IT BURN>  
NAKANISHI Mai (TT2023、日本) <Child, Uninvited>  
Sein Lyan Tun (TT2016、ミャンマー) <The Bamboo Family>  
Angelina Marilyn BOK (TT2023、シンガポール) <Free Admission>  
Siyou TAN (TT2022、シンガポール) <amoeba>  
Nelson YEO (TT2014、シンガポール) <The Drought>  
KUO Ming-Jung (TT2022、台湾) <A Woman Builds>  
NGUYEN Hoang Diep (TT2023、ベトナム) <The saddest stories on Earth>

### b) インターナショナル・プロモーション・ファンド

Alemberg ANG (TT2014、フィリピン) <Some Nights I Feel Like Walking>  
Janus VICTORIA (TT2013、フィリピン) <Diamonds in the Sand>  
CHIANG Wei Liang (TT2019、シンガポール) <Mongrel>

\*氏名 (タレンツ・トーキョー修了年、 国名/地域名) <企画名>

選考委員会は、池田高明 (NHK エンタープライズ)、市山尚三 (タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルムメックス理事長)、神谷直希 (タレンツ・トーキョー/東京フィルムメックスプログラムディレクター) により構成されています。

一次選考には、市山尚三 (タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルムメックス理事長)、林 未侑 (タレンツ・トーキョー) が参加しました。

\*受賞者名は国名/地域名のアルファベット順で表示しています。

\*国名/地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。

\*2024年10月3日時点の情報であり、変更になる可能性があります。